

(10)

氏名(生年月日)	藤 多 恒 子 フジ タ ヒサ コ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第 369号
学位授与の日付	昭和54年 6 月15日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当 (博士の学位論文提出者)
学位論文題目	メニエール病の経過と内耳機能
論文審査委員	(主査) 教授 上村 卓也 (副査) 教授 大内 広子, 教授 石津 澄子

論 文 内 容 の 要 旨

研究目的

メニエール病については種々の研究が行われてきたが、なお不明な点が多い。このうちメニエール病の経過に伴う内耳機能の変化はその病態を理解する上で重要であるにもかかわらず、十分な研究が行われていなかった。そこで、メニエール病患者のうち最終発作後にも経過を観察しえた症例を集め、経過に伴って内耳機能がどのように変化するか、およびめまい発作が停止した後に内耳機能はどのような状態になっているかについて研究を行なった。

研究対象

最近10年間に東京女子医科大学耳鼻咽喉科を受診したメニエール病確実例256例のうちから、1年以上めまい発作のないこと、およびめまい発作のない期間がそれまでの最長発作間隔より長いことの2つの条件を満たす治癒例86例93耳を選び、研究対象とした。メニエール病確実例の診断は、厚生省メニエール病研究班による診断基準に準じた。

研究方法

各症例における経過を、初発発作前、初発発作から最終発作までの期間の前1/3である前期、その中1/3の中期、その後1/3の後期、最終発作後という5つの病期に分類した。内耳機能については、聴力検査および平衡機能検査を行ない、それらの検査成績と検査の行なわれた病期との関係を検討した。

研究結果およびまとめ

1) メニエール病の経過を、初発発作前、前期、中

期、後期、最終発作後の5つの病期に分類し、病期の進行に伴う聴力の変化を調べたが、一定の傾向は認められなかった。最終発作後の聴力については、30dB以上の難聴は53耳中28耳(53%)で、残りの47%は30dB未満の例であった。

しかし罹病期間について3年以上の例、発作回数について6回以上の例に限った場合には、いずれも経過に伴う難聴の増悪傾向がみられた。

2) 半規管機能について各々の病期との関係を調べたが、罹病期間を3年、発作回数を6回で区切った場合にも経過に伴う増悪傾向はみられなかった。最終発作後の半規管機能については、正常であったものが42耳中17耳(40%)、中等度以上の半規管麻痺が22耳(52%)であった。

3) 聴力と半規管機能との相関を、初診時におけるメニエール病患者220例(患耳236耳)および最終発作後の37例(患耳42耳)について調べたところ、どちらか一方のみの障害例が約1/3あり、蝸牛と半規管とにおける障害がかなりの例で分離しておこることがわかった。

4) 多変量解析法を用いてメニエール病患者の特徴抽出を行なった結果、疾患の持続と聴力との間には関連のあることが判った。しかし聴力以外の諸因子については特徴的な関係は見出されなかった。

以上のようにメニエール病における内耳機能は、めまい発作の治療後という病期に限ってみても多様であり、また経過に伴う一定の変化も見出されなかった。したが

つて、その病因の解明はこのような多様な内耳病態の理解に基づいて行う必要があることを強調した。

論文審査の要旨

本論文は、めまい発作の治癒後の症例を含めたメニエール病の全経過における内耳病態を、聴力および半規管機能の面より研究したものである。本疾患の病因解明に寄与するところ大なる論文と認める。

主論文公表誌

メニエール病の経過と内耳機能.

耳鼻と臨床 第24巻 補冊2号 630~643頁
(1978年7月20日)

副論文公表誌

- 1) 扁桃摘出術(全麻下)における Lage による出血量の差について.
日本扁桃研究会会誌 14 8~10 (1975)
- 2) シリコン製Tチューブによる喉頭狭窄の治療.
日本気管食道科学会会報 27 (4) 306~309 (1976)
- 3) 初診後平均8年のメニエール病患者の予後.
耳鼻臨床 70 (増5) 1691~1696 (1977)
- 4) 血清アミラーゼ・アイソザイムからみた唾液腺疾患.
耳鼻と臨床 24 (補冊2) 695~699 (1978)
- 5) 後天性喉頭横隔膜症の1例.
耳鼻と臨床 24 (補冊2) 700~703 (1978)
- 6) 気管過誤腫の一例.
耳鼻と臨床 24 (補冊2) 723~727 (1978)
- 7) P.T.P (Press-Through Pack) による気管異物の一症例.
耳鼻と臨床 24 (補冊2) 728~731 (1978)
- 8) 石灰化上皮腫の2例.
耳鼻と臨床 24 (補冊2) 736~740 (1978)